

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(11月7日～11月13日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。11月7日から11月13日までに8041件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは1検体でした(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(11月7日～11月13日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	291	0	—	栃木県	農産物	55	0	—
	畜産物	375	0	—		畜産物	1095	0	—
	水産物	228	0	—		水産物	3	0	—
	牛乳乳児用食品	8	0	—		牛乳乳児用食品	10	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	45	0	—		飲料水、その他	3	0	—
宮城県	農産物	92	0	—	群馬県	農産物	27	0	—
	畜産物	1165	0	—		畜産物	555	0	—
	水産物	43	0	—		水産物	15	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	5	0	—
	野生鳥獣肉	5	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	3	0	—
茨城県	農産物	62	0	—	千葉県	農産物	46	0	—
	畜産物	441	0	—		畜産物	32	0	—
	水産物	14	0	—		水産物	12	0	—
	牛乳乳児用食品	3	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	37	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	1	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2016年 5月 1日	94.8%	5.2%	0.0%
2016年 5月 8日	100%	0.0%	0.0%
2016年 5月15日	88.0%	12.0%	0.0%
2016年 5月22日	97.2%	2.8%	0.0%
2016年 5月29日	93.1%	6.9%	0.0%
2016年 6月 5日	93.3%	6.7%	0.0%
2016年 6月12日	95.1%	4.9%	0.0%
2016年 6月19日	94.8%	5.2%	0.0%
2016年 6月26日	96.6%	3.4%	0.0%
2016年 7月 3日	96.7%	3.3%	0.0%
2016年 7月10日	96.9%	3.1%	0.0%

2016年 7月17日	97.6%	2.4%	0.0%
2016年 7月24日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年 7月31日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月 7日	96.6%	3.4%	0.0%
2016年 8月14日	95.5%	4.5%	0.0%
2016年 8月21日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月28日	95.8%	4.2%	0.0%
2016年 9月 5日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年 9月12日	93.4%	6.5%	0.0%
2016年 9月19日	96.8%	3.2%	0.0%
2016年 9月26日	98.8%	1.2%	0.0%
2016年10月 2日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月 9日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年10月16日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月23日	95.3%	4.7%	0.0%
2016年10月30日	94.9%	5.1%	0.0%
2016年11月 6日	98.1%	1.9%	0.0%
2016年11月13日	98.6%	1.4%	0.0%
2015年10月平均	(92.8%)	(7.2%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつかりませんでした。これで82週連続、基準を超えた魚介類が見つかりません。検出限界以下の割合は約98%となりました。全体的に大きな変化は見られません。魚介類から検出されるセシウム137も10ベクレル以下という結果となっています。

何らかの数値が検出されている魚種と地域です。①いわき市(コモンカスベ、シロメバル)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①福島県で販売されていた野生きのこ(ハツタケ)について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨公表されました。採取地は不明です。ただし、福島県で採取された野生きのこについては一部の地域をのぞいてすでに出荷制限措置がとられているため、これ以外の地域のものが販売されていた可能性があります。

ア. 福島県内で流通していた野生きのこ(ハツタケ):250 ベクレル/キログラム)

(3)京都の空間線量(11月7日～11月13日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.039～0.042 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.046～0.050 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.12～0.13 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.16～0.17 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の

5分の1くらいになっています。過去の平均は0.037～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

(4) 京都府で収穫、捕獲した農水産物の結果

今週の報告はありませんでした。

3. 関連情報

(1)16年産米はセシウム基準値未滿 全袋検査の786万点超全て(福島民友ニュースより)

県は9日、県内の本年産米の全量全袋検査で、8日までに検査した786万3021点全てが食品の放射性セシウムの基準値(1キロ当たり100ベクレル)を下回ったことを明らかにした。このうち99.99%に当たる786万2727点は検出限界値(1キロ当たり25ベクレル)未滿だった。

県議会政調会で県が玄米の検査状況を報告した。放射性セシウムが検出された294点のうち、1キロ当たり25～50ベクレルは292点、同51～75ベクレルは2点だった。

本年産米の検査は8月24日に始まった。例年、1000万点以上の玄米が検査されている。

以上